

- 国際情勢の悪化や気候変動による国際的なサプライチェーンの混乱が起きている中、安定的なグローバルサプライチェーンの確保に向けて国際物流の多元化・強靱化を図る観点から、実証輸送を実施する。今回は、モード転換や新規ルート探索に加え、既存の成果を発展・深化させることを念頭に実証輸送を実施し、その有効性を深堀する。
- 本取り組みは、「普段は使わない有事の際の代替ルート」の開発を行うのではなく、「平時からの輸送経路を分散・複線化しておく」ことを目指している。実証調査では、「実務に使えるルート」を開発することを主眼に置き、マーケットから受け入れられる条件をクリアする取り組みや荷主のビジネス上のニーズに応えるルート開発を行う。

【実証輸送の実施条件】

- 令和7年11月～令和8年1月を目途に実施するものであること。
- 日本を発地又は着地とし、以下【実証輸送テーマの説明】のいずれかの条件にて輸送するものであること。

【実証輸送テーマの説明】

① Shipper's Routing型のルート開発

荷主が戦略・事業要件などに基づき、輸送手段・ルート、物流事業者などを選択し、主体的にルート開発を行う。

Shipper's Routing

荷主が輸送手段・ルート・物流事業者を自らが指定・指示する方式であるが、単なる輸送方式の選択にとどまらず、荷主が物流を戦略・事業視点から戦略的アセットとするためのロジスティクス設計手段。

荷主の戦略・事業要件

輸送方式等の選択

戦略・事業要件に基づきロジスティクスを設計

輸送手段

ルート

物流事業者

② 既存ルートの深化

過去の実証ルートを参考に影響が大きい課題の解消や影響を低減する施策を立案し実用化に向け改善を図る。

影響度が大きい課題（例）

輸送コストの大幅高



輸送の大幅遅延



トラッキングのタイムラグと一時的な途切れ



税関手続きの難航



③ ルート活用の高度化

実運用と同等の条件による輸送を行った場合に、発生する課題やルートの有効性等について検証する。

高度化の取り組み（例）

複数コンテナ輸送



複数荷主混載



チャーター輸送



内陸ICD等活用



※ 実証輸送を主導するのは荷主・物流事業者のどちらであってもよい。

※ 必要に応じて既存ルートは一部変更してもよい。

※ 必要に応じて既存ルートは一部変更してもよい。

【留意事項】

- 本実証輸送の実施に当たり、一輸送につき原則として100万円を調査協力に係る費用として支出するが、複数コンテナの場合は2コンテナまでを上限に200万円を支出する。ただし、応募件数が少ない場合、支給金額の調整を行う可能性がある。